

独自技術で切り開く新たな市場 ～ものづくり企業の中国市場への挑戦～

texted by 滋賀銀行 上海駐在員事務所 森岡 拓哉

株式会社ゴーシューは、滋賀県湖南市に本社を構える鍛造メーカー。2012年1月、上海の西160kmに位置する江蘇省常州市に、現地法人「常州江鍛汽車零部件有限公司」を設立し、中国に初進出した。今回、現地法人を訪問し、同社が中国進出に至った経緯や今後の中国市場における展望についてお話を伺った。



常州市の現地法人で導入した、3000トン級の大型プレス機を備えた自動化製造ライン

独自の技術を武器に グローバル展開

同社は、1946(昭和21)年に株式会社江州鍛造工業所として創業。長年の業歴で培った塑性加工技術を駆使する独自の鍛造*技術を武器に、“強い・軽い・高精度”な製品作りを強みとして、日本の自動車産業の発展を支えてきた。96年には、自社ブランド製品の競争力強化とグローバル展開を目指し、自動車部品メーカー三恵工業(栗東市)と共同出資にてインドネシアに現地法人を立ち上げ、初の海外進出を果たした。

中国進出に至る軌跡

安価な労働力を求めて日本のものづくり企業が相次いで中国進出を果たすなか、同社にもサプライヤーとして自動車メー

カーから中国進出のオファーがあった。具体的に社内で検討を進めたが、この時の結論は、ものづくりの原点である「技術」にさらなる磨きをかけ、まずは日本でオンリーワン企業を目指す、というものであった。

その後も日系自動車メーカーの中国生産シフトは加速し、海外へのものづくり移転は顕著となっていった。同社も、世界最大の自動車市場である中国の魅力と、日系自動車メーカーのニーズが最高潮に達した今が中国進出のチャンスと判断し、現地法人設立に踏み切った。

現地法人を支える 中国人の元研修生

現地法人立ち上げにあたり、大きな力となったのが、過去に日本本社で3年間研修生として勤務した中国人研修生たちである。彼らはすでに中国に戻っていたが、同社の進出に際し即戦力として設立をサ

ポート。今では“ゴーシューのものづくり”を経験したリーダーとして中国人ワーカーを統率する頼もしい存在となっている。

現在従業員は総勢59名。若い世代が多く、仕事に対して向上心を持って取り組む姿勢が見られ、活気のある職場となっている。離職率も低く、人材に恵まれたことが、計画通りに工場を稼働できた原動力となった。

活況に沸く中国の自動車市場

2013年、中国は新車販売台数が2,000万台を突破し、5年連続で世界トップの座を確保。右肩上がりに成長を続け、今や世界の自動車販売台数の約4分の1を占める巨大市場を形成している。同社も活況に沸く中国自動車市場を背景に、これまで堅実に磨き上げてきた技術力を最大の強みとして、日系自動車メーカー各

社の信頼を勝ち取り、引き合いは高まる一方だ。製造ラインは昨年6月に本格稼働を開始したばかりだが、今後の受注拡大に対応するため、当初計画より1年前倒しで第2ラインの増設を決定し、2015年の稼働を目指している。

国内事業と海外事業の両立

昨年は、インドネシア現地法人でも新工場を稼働させ、順調に海外でのものづくりを展開している。ただし、今後の方針は海外生産比率を高めるのではなく、長期的かつ持続的な企業成長を成し遂げることにある。売上比率の大部分を占める自動車部品への偏重を回避し、独自の鍛造技術を生かして鉄道関連や医療関連など、自動車分野以外での市場開拓を目指している。

海外では現地生産の拡大を、日本国内では新規分野の開発を進める方針であり、国内と海外の役割を明確にすることで相乗効果を楽しみ、より盤石な事業基盤の構築を狙っている。

当行の海外進出サポートをフル活用

上海駐在員事務所では、同社取引支店である草津支店と連携し、中国進出の

検討段階からサポートさせていただいた。進出候補地の紹介や調査、情報提供を行うとともに、現地駐在員の住環境についてもフォロー。また、会社設立後も財務、税務、労務のアドバイスをはじめ、スタンドバイL/Cを活用した人民元ローンをご利用いただくなど、当行の海外サポートサービスをフルに活用いただいている。

独自の鍛造技術で新市場を切り開いていく同社に対し、当行も引き続き国内外連携の上、一層のサポートをしていきたい。

会社概要

▶株式会社 ゴーシュー

- 所在地/滋賀県湖南市石部緑台2-1-1
- 代表者/代表取締役 後藤 充啓
- 設立/1946年11月
- 資本金/3億5千万円
- 事業内容/金属鍛造部品製造
- URL/http://www.gohsyu.co.jp/

▶常州江鍛汽車零部件有限公司

- 所在地/江蘇省常州市武進經濟開發區長帆路8号
- 代表者/董事長 中井 満水
總經理 田村 互
- 設立/2012年1月
- 資本金/10億円
- 事業内容/自動車部品製造(プレス鍛造)





常州市の現地法人で製造している自動車向け製品



左から、現地法人を率いる林副総経理、中井董事長、田村総経理

*鍛造=金属素材を打撃・加圧することで、目的の形状を造ること

世界の製造拠点として 注目されるメキシコ

今、メキシコが「新しい世界の製造拠点」として注目を集めている。NAFTA(北米自由貿易協定)や世界44か国とのFTA(自由貿易協定)締結による世界への輸出拠点としての強みに加え、米国への地理的優位性、低コストの労働力確保が可能など等がその要因だ。

例えば、米国・メキシコ国境には56か所の通関所が設置され、両国の輸出入量は毎分約100万ドルに上る。メキシコで製造した商品・部品を素早くかつ低コストで米国企業に納入できるため、日欧企業の生産拠点進出や現地法人設立が相次いでいる。なお、日本からメキシコへの製造業投資の大半は自動車分野であり、自動車メーカーが2011年頃から大規模投資を行うとともに、その後も生産能力強化を進めているほか、部品メーカーも追随して現地法人の設立に動いている。

米国が金融緩和縮小を決定した昨年12月以降、メキシコペソは他の新興国通貨と同様に下落し、国外への一部資金流出が見られたものの、今年2月には大手格付会社が同国の外債建および自国通貨建長期国債格付けをそれぞれ「Baa1」から「A3」へ一段階引き上げ、見通しを「安定的」としている。また、メキシコのGDP(2012年度)は1兆1,770億ドルで世界14位、人口は1億1,498万人と日本に次ぐ世界第11位。政府債務残高は低水準で推移しており、80年代以降の累積債務問題、通貨危機の経験を糧にして、規律ある財政運営を行っている点も評価されよう。

さらに特筆すべき点は人口の半数以上が30歳未満という人口構成であり、現在の経済成長が続けば所得水準の向上が個人消費を押し上げることが見込まれ、一段の景気拡大が期待できる。今年1月の世界経済フォーラム年次総会で「メキシコは長期的な投資先として魅力的」と評されており、引き続きその存在感は増していくだろう。

(しがぎんアジア月報3月号より 市場金融部 仲井)

